

○犬の飼主のモラルについて

最近、新聞及びテレビ等で犬による咬傷事故や迷惑苦情がよく報道されている事例がありますが、飼い主のモラルが問題にされておられますので、飼い主として守らなければならないことや心得などについておたずねします。

熊本市・一主婦

犬は熊本県内には六万三千頭位が飼育されており、又野犬や不用犬として毎年二万三千頭位捕獲収容されており、世帯数にすれば七世帯に一頭の割合で飼育されております。

犬による咬傷事故も二百件位毎年起こっており、この内、百六十七件が飼い犬で、それも放し飼いやよこして起った事故が百五十件で大半を占めております。そこで犬を飼う場合、他人に危害や迷惑をかけないよう飼い主が守らなければならない主な事項を掲げてみましょう。

- 一、犬の登録と狂犬病予防注射の実施：
人畜共通伝染病の狂犬病を予防する

ため、年一回の登録と年二回（春秋）の予防注射を必ず受けねばなりません。

一、放し飼いの禁止：
人や社会に迷惑や危害を及ぼさないように必ず「けい留」するか「檻」に入れることです。

一、捨て犬の禁止：
捨てられた犬は「野犬」の発生源となり人々に危害を加えます。捨て犬はしないでください。

一、飼いが不用になったとき：
動物愛護の精神は、責任をもって終生飼育することですが、やむを得ず不用になった犬は、市町村役場又は保健所に持参して引き取って貰うことで、飼い主の責任を果たさなければなりません。

一、飼いが人に咬傷を与えたとき：
直ちに保健所に届け出て指示を受けるとともに獣医師に検診を受けてください。

一、犬の発情期に困る方、産ませたくないと思ふときは：
普通雌犬は年二回発情があります。発情期には群をなしたり、けんかしたり、夜鳴きしたりして悩まされることがあります。こんなときは、獣医師から不妊手術、去勢手術をして貰うことをおすすめします。

以上、飼い主の心得を列記しました。
(熊本県環境整備課)

どうなつとるんかいな

●あるバス停に、たばこの灰皿と、くず物入れが備えてございます。その灰皿には紙くずや空箱が捨ててあり、たばこの吸殻は、そこら辺りに散らしておりました。

灰皿はたばこの吸殻を、くず物入れは紙くずや空箱を捨てるものというところが、おわかりにならないのかい。

●交差点からビヨビヨ、カッコウが聞え、街の目抜き通りには目の不自由な人のための歩行道ができ、身障者、老人のために黄色のシートをかけたバスが走っています。

と、ところがそのイエローシートに掛けた若者は、老人や身障者が来て知らん顔。面倒くさいからですか。わが熊本市は福祉都市を宣言いたしております。

●歩道は、歩行者が歩くための道に間違いはございません。ところが、その歩道に商品が陳列してある。單車や自転車は放置してある。ために歩行者は車道にはみ出して歩く破目と相成る次第でございます。

売り上げを増やすには多く客に入ってもらわねばならぬ。そのためには多く店の前を通ってもらわねばならぬ。この原理、誤りでございませうか。

もっこす

●野犬が横行して困る、野犬に咬まれた、などの苦情が後を絶ちません。前頁にもありますが、保健所は野犬退治に懸命ですけど一向に減りません。一体、野犬になるものは如何にして生れるでしょうかね、そこら辺の原因がわかればなくなるでしょうが。いや皆さんちゃんとおわりの筈。わかっているけど守られない。そこが問題。

どうにかならんもんかいな

●朝のラッシュタイムどこもかしこも見事に並んでいます。マイカー、マイカー、マイカー、マイカー、それほとんど一人乗り。さぞかし皆さんイライラのこととお察しいたします。

仮りに二百台並んだとして、バスに詰めれば、ゆっくり座って四台分。計算どおりにはいかんもんですかいな。

●廃ビニール燃やしても駄目

土に埋めても駄目。全く処理に困ります。それでも現役時代は、農家収入に寄与してくれたんだから、末路まで人に喜ばれるように処理してあげたいのがねえ。

化学的に合成されたんだから、その逆の手順で元に戻らないもんですかいな。これからは新しい製品を開発するときは、併せて、元に戻す方法まで研究しておくことが肝心と考えます。

施設紹介

熊本県立
富合病院

「病める心に

明日への希望」

当院は、熊本県桜ヶ丘療養所と熊本県小川再生院を発展的に廃止統合し、公的精神病院として昭和五十年十一月一日開設されました。雁回山の麓、下益城郡富合町平原の風光明媚な田園の中にその勇姿を眺めることができます。敷地六万七千四百平方メートル、建物面積は八千九百四十四平方メートル、精神・神経科二百五十床を有する病院です。設備も県立精神病院として治療的環境を第一に考え、各病棟ごとに食堂やデールーム・テラス等広いスペースをとり、病者にとぎされた感じを与えないようなおのほろのある治療の場・生活の場として配慮し、開放病棟を始め入院治療病棟、老人・小児病棟、合併症病棟等、多様化してゆく疾病構造にあわせて対処すべく拡充整備されています。さらに作業やレクリエーション療法のセンターとして生活訓練棟も新設しております。

当院は精神障害者の単なる保護収容施設ではなく、あくまでも治療と可能なかぎりの早期退院をめざしており、そのため病者の作業療法・レクリエーション療法及び余暇活動の育成・指導等広く行っております。年間行事として春はひな祭、花見、夏は七夕祭や盆踊り、秋の大運動会、冬はクリスマス等、その他院内外スポーツ大会や誕生会等定期的に実施し、農耕・園芸・陶芸・木工手工芸等の作業活動、さらに教養クラブとして書道・華道等各グループ活動も実施している他、患者自治会も活発に行われていきます。

又患者家族会も家族学級を初め、行事や療養生活への参加等、病院と一体となって精神病への理解と社会復帰に向かつて熱心に学習しております。

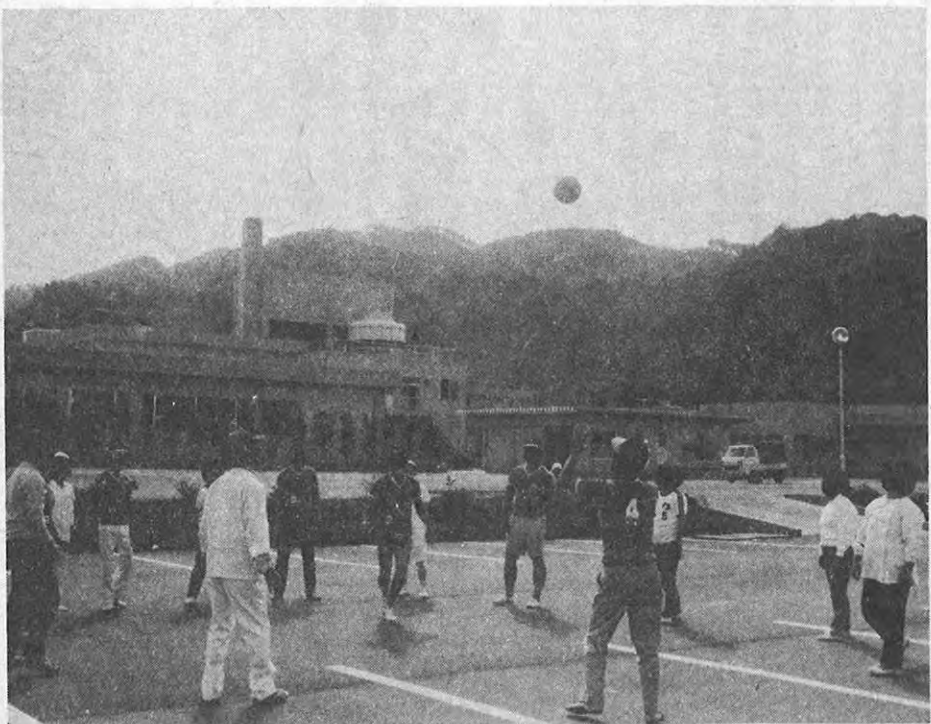
地域社会に対しても、行事への参加を呼びかけ、運動場等を広く開放して地域住民との交流を図るとともに、病者の院外作業やスポーツを通じて精神病院や精神病を理解してもらうようはたらきかけております。

『病める心に明日への希望』をかか

るべく日夜努力をいたしております。

(所在地) 下益城郡富合町平原三九一

電話：〇九六三(五七二二五二)



▲ 明るく、うるおいのある治療の場、生活の場をめざしている富合病院